

## 長崎大学とポルト大学との学術交流協定締結を振り返って

2011年3月

在ポルトガル日本国大使館 宮川 雄一

2010年11月、日本ポルトガル修好150周年という記念すべき年に、長崎大学とポルト大学は学術交流協定に調印しました。この調印に至るまでの経緯についてご紹介いたします。

### 1. ポルト大学による長崎大学との学術交流協定締結希望

1978年に長崎市とポルト市は姉妹都市提携を行いました。日本とポルトガルの間では2番目の歴史を有する姉妹都市関係であり、これまで両市は、長きに亘りお互いの友情を育てています。

2008年、姉妹都市提携30周年を記念して、長崎市の田上市長ご一行がポルト市を訪問し、記念式典などに参加しました。その際に、ポルト大学のマルケス副学長より、田上市長及び記念行事に参加していた日本大使館館員に対して、ポルト市と長崎市は姉妹都市提携を行っており、30年間に亘って交流を続けてきている、しかし、両市を代表する大学間に交流協定がないのは不自然であり、両国間の学術交流を発展させるためにも、ポルト大学は長崎大学との学術交流協定締結を強く希望するので是非協力して欲しい旨依頼がありました。

因みに、長崎市長ご一行がポルト市訪問を終え日本に帰国した直後の2008年10月に、長崎大学の下村名誉博士がノーベル化学賞を受賞しました。この朗報に、ポルト大学関係者は、長崎大学との協定締結に向けてさらに気運が高まったことと思います。

### 2. 2010年日本ポルトガル修好150周年

2008～2009年にかけて、在ポルトガル日本大使館は、2010年日ポ修好150周年において、様々な記念事業を実施するために準備を行っていました。

日本大使館としては、両大学間による交流協定締結が実現するのであれば、両国の学術交流促進に繋がると考え、日本大使館より長崎大学に対して、ポルト大学の意向及び2010年は日ポ修好150周年であり交流協定を締結する好機である旨伝えました。

日本大使館からの働きかけに対し、長崎大学の小路副学長は、長崎大学は既に多くの海外の大学と協定を締結しており、海外から多数の留学生を受け入れている、ヨーロッパではオランダ、ドイツの大学と協定を締結しているが、これにポルト大学が加わることは非常に良いことであり、前向きに検討したい旨回答がありました。

日本大使館よりマルケス副学長に対し小路副学長の意向を伝えたところ、マルケス副学長は、日本大使館の協力に感謝申し上げる、我々としても日ポ修好150周年に併せて協定を締結したいと考えているので、早速、小路副学長に連絡を取り調整していくこととする旨述べました。

### 3. 長崎大学・ポルト大学学術交流協定調印式

その後、両大学による調整は順調に進み、小路副学長によるポルト大学事前視察を経て、2010年に協定を締結することとなりました。また、2010年11月に(財)国際親善協会主催のジャパン・ウィークがポルト市で開催されることが決定しました。ジャパン・ウィークは900人以上の日本人が来訪し様々な文化行事を実施する150周年の中でも最大規模のイベントです。調印式は、多くの日本人が来訪する相乗効果を考慮し、ジャパン・ウィーク開催時期に併せて片峰長崎大学学長ご一行がポルト市を訪問し

て行うこととなりました。

2010年11月23日、片峰学長とマルケス副学長(ポルト大学学長代理)は、ポルト大学本部「評議の間」において、学術交流協定に調印しました。

#### 4. ポルトガルにおける日本研究推進に向けて

日本では複数の大学で、ポルトガル研究、ポルトガル語教育が行われています。その一方で、ポルトガルにはまだ日本研究を専門に行っている大学はありません。また、日本人は誰でも種子島におけるポルトガル人による鉄砲伝来を知っています。その一方で、ポルトガルでは一部の知識人を除いて、日本とポルトガルの長い歴史を知る人は限られています。

現在、このような状況を改善すべく、在ポルトガル日本大使館は、四宮大使を中心に、ポルトガルの学校教育の場における日ポ間の歴史教育の推進、高等教育機関における日本研究・日本語普及の促進に向けて、積極的に各方面に働きかけを行っています。

2月、四宮大使は、日本に用務帰国した際に、前年の学術交流協定調印のフォローアップも兼ねて長崎大学を訪問しました。その際に、小路副学長より、長崎大学としては、ポルト大学に講師を派遣し講義を行うことも検討しているため、できれば今年の適当な時期にポルト大学を訪問し、関係者と協議したい旨発言がありました。この様に、両大学は既に具体的な交流について動き始めており、学術交流協定調印を機に、ポルトガルにおいて日本研究が根付く可能性の芽も出てきました。

#### 5. 結び

昨年11月のジャパン・ウィーク開催に合わせて、宮脇在長崎ポルトガル名誉領事(十八銀行頭取)を始めとする長崎市の財界関係者、ヴィラ・ド・ビスポ市と姉妹都市交流を行っている西之表市の長野市長一行、フンシャル市と新規姉妹都市提携を検討している天草市の安田市長一行などもポルトガルを訪問しました。

在ポルトガル日本大使館は、日ポ修好150周年を機に、両国が未来志向の関係により新たに飛躍していくことを目的として記念事業を実施してきました。その結果、昨年は、日本文化普及を始め、両大学の交流協定調印、日ポ姉妹都市交流の活性化、新規姉妹都市提携の推進等を図ることができました。

2010年の交流を礎として、文化、学術、そして、政治・経済等あらゆる分野で二国間関係がさらに発展し、日本とポルトガルがお互いに真の友人として未来に向けて共に歩んでいくことを期待してやみません。



協定調印後に握手するマルケス副学長と片峰学長



親日家であるロザ・モタ・女子マラソンオリンピック金メダリストも参加して記念撮影